

# かがやき

令和5年 1月 20日(金)  
多摩市立連光寺小学校  
特別支援教室 かがやき学級  
学級通信 NO. 14

## ゆっくり、じっくり。新しい1年の始まり。

新しい1年が始まりました!本年もよろしくお祈いします。今年はず少ずつ「社会」が動き始め、いろいろな形でのお正月が戻ってきたように感じました。年始、ある新聞広告でのび太君の姿を見かけました。自分の部屋で、ストーブでぬくぬくしながら寝転んでお餅をほおぼるシーンで「のどかなお正月だなあ〜」、「今年はいいいことがありそうだ」とセリフがくっついていいます。広告には「信じてみよう」とキャッチコピーがくっついていました。いろいろなことが起こり続けるこの社会ですが、のび太君の、のんびりとした一言に「そうだなあ〜」とふわっとした気持ちになりました。冬休み明け、学校は年度末に向かう季節です。次の学年に向けてのいろいろ準備も始まりますね。「いいことがありそうだ」そのことを信じて、いい1年にしていきたいですね。

## 感覚のちがいを想像することの大切さ。

自分にとって当たり前なのが当たり前ではない世界もある。冬休みに「発達障害の人には世界がどう見えているのか」(認知神経学者・井出 正和 著・SB 新書)という本を読みました。そこから見えてきたのは改めて自分にとって当たり前なのが当たり前でない「発達障害」の世界でした。かがやきでは「凸凹」や「特性」とも説明をすることがありますが、今回改めて「なるほどなあ」と感じたのは本書の中で説明されていた「感覚の問題」についてです。特に「感覚過敏」「感覚鈍麻」この二点については近年、新しく発達障害の診断基準にも加えられたとのことから改めて意識していきたいところです。「感覚」は外部からの刺激を自分でどう処理しているかの部分ですが、周囲の音、におい、味覚、触覚等の刺激が過剰に感じられると生活に支障をきたし易くなるものです。一般論としての「このくらい問題ない」「ちょっと我慢すれば大丈夫」という「感覚」は多くの分野で多く共有されているものですが、この本に紹介される自分が苦しくなってしまうほどの「感覚」のちがいについて知れば知るほど、当事者の方が日々の生活の中に感じるストレスも大きいものであることを想像しました。学校生活における様々な子供たちの声のひとつひとつに改めて「想像力」を働かせていくことの大切さを思いました。機会があればぜひ一ご一ご読んでください。

## お知らせ

- ・個人面談ありがとうございました。
  - ・今後の事務連絡あれこれ
- ① 第三期の個別指導計画を作成します。ご家庭に届きましたらご確認をお願いします。1月下旬〜2月上旬に配布する予定です。
  - ② 来年度の特別支援教室利用について継続確認でき次第お知らせします。
  - ③ 3月中旬に今年度最後の懇談会を予定します。

4コマ劇場  
『年明けから』

